

# 保護者の協力もある学習相談室の現状と課題

## —草加市立松江中学校—

鏑木良夫

### 1. はじめに～マスコミはどう見たか

TBSのCS放送の258チャンネルで2002年4月4日に教育問題を扱った番組が放映され、その中で、私どもの松江中学校が取り上げられました。今からそれをお見せしますが、例えば「学習指導要領」という言葉が「教育指導要領」になっていたり、また「学習相談室」が「学習相談窓口」となっていたりしていますが、その点は差し引いて見て下さい。

番組では、埼玉県という地域の特徴、つまり東京よりも子どもの生活における学校教育の比重が重く、部活も東京よりも盛んで、古き良き雰囲気が残っている地域ということも放映されていました。そのような中で、松江中学校とその学習相談室も扱われました。

【ビデオ】新しい学習指導要領—授業時間数の削減。公立校に対する親の不信感。カリキュラムの編成に自由が利く私立校に人気が高まっている。「勉強をさせるなら私立へ」（例：埼玉県）。完全週5日制の学校は少ない、受験に特化した勉強ができるなどの理由。しかし、これは首都圏を中心とした動向。私立校の少ない地方の子どもは公立校に通わざるを得ない。

このような流れの中、最近増加している個別指導の塾。一般の集団形態の学習塾と違って、学力の高い子どもを対象とするのではなく、学力の低い子どもを対象としている。教育を専門とするサービス業。1対1の指導、先生は生徒の指名制で、メンタルな部分のケアまで請け負うことも。ピグマリオン効果（親密な関係にある先生に期待されることによって学力が伸びる）。生徒にも先生にも両方に良い効果。

私立にも塾にも行かない公立校に行く子どもにとって、新学習指導要領の施行はどのような影響を及ぼすか？公立校による巻き返しを図った努力と工夫（例：草加市公立松江中学校の学習相談窓口—学力低下阻止の目的で課外に補習が行われている。公立の

独自性を打ち出すための試みでもある。専門教科以外の先生やボランティアの保護者が教師として協力する。マンツーマンではないものの、生徒の求めに応じて個別の形態。）選択権の幅は広がる。どのような教育を選び取るか、厳しい時代になったともいえよう。

### 2. 学習相談室の現状

「保護者の協力もある学習相談室の現状と課題」ということについて述べていきたいと思います。松江中学校の学習相談室は、保護者の方にも協力、支援をいただいているということが一つの特徴かと思われたので、このようなタイトルといたしました。

#### (1) 水曜の午後の1時間30分

学習相談室の現状ですが、開設時間は、毎週水曜日午後2時から3時半まで。年間27回を予定しており、すでにもう何回か進んでいます。担当者としては担当学年の教師1名ずつの計3名があたり、そのサポートとして保護者の学習相談ボランティアの方々（8名）に毎回3～4名来ていただいています。その他、緊急雇用対策で本校に配置されている学習支援補助員が1名いるので、その方にも手伝ってもらっています。

#### (2) 自由参加で、ほとんど復習

参加形式は自由参加で、学習内容も生徒が決めることになっています。つまり、学習支援は生徒の求めに応じて教える形をとっています。また、最も意見が分かれた末に決定したことなのですが、学習相談室の開設時間内での部活動は禁止となっています。表1に示しましたように、参加状況は、昨年10月から3月までで19回、のべ190人なので、1回当たりの平均は約10人でした。一番多い日が34人で、一番少ない日が1名でした。

生徒が学習した教科は、多い順に、数・英・理・国・社となっています。学習の内容ですが、復習が87%で、

予習が13%でした。私としては「復習もいいが、予習をやしてほしい」というのが本音であり、今年は学習相談室に来た子どもに、なるべく予習をやるように言っています。予習をしてから授業に臨めば、その子どもが授業の進み方に追いついていけるのではないかと、ということ考えた上でそう言っているわけです。使用教材としては、問題集・教科書・その他塾の問題集・進研ゼミのような通信教育教材を生徒自身が用いています。

### (3) 参加しない生徒

学習相談室に参加しないで校内にいる生徒は、3時半まで遊んで帰宅するか、3時半から部活をするかのどちらかです。このように、グラウンドで、体育館で、あるいは教室で遊んでいいということは、逆に言えば、放課後の行動を生徒自身が自由に選択してよいということになります。このように決めた結果、遊ぶ者、学習相談室を選ぶ者、2時に帰宅する者、という3つの子どもに分かれました。部活は、3時半、学習相談室が終わったらスタートするという形にしました。

### (4) 日課表等の工夫

なお、開設を保証するものとして、水曜日を4時間授業とするような日課表を組みました。水曜日4時間授業を実現するための具体的な工夫としては、清掃時間帯を朝に移動し、しかも清掃を朝の打ち合わせをしない日(週3回)に限定したり、年間総授業時数から授業時間を決めて(教科によって授業時間が異なる)年間固定の時間割を組んだり、行事の精選をしたりなどでクリアーしました。

## 3. 学習相談室の課題

このような様々な工夫や協力のもとに運営している学習相談室ですが、課題も存在します。

### (1) 部活動

部活動との関係が大きな課題です。私としては水曜日を学習集中日にしたいと考えています。部活があると、その結果として学習相談室に参加しない生徒もおり、相談室が少々寂しくなる、ということも懸念するところなのです。しかし一方で、部とその顧問教師には、練習時間や練習場所を確保したいという希望もあります。と言いますのも、水曜が4時間授業ということは、部活をしても帰りが遅くならないので家庭に気

兼ねなくてもよく、部活にとっても好都合という側面があるからです。そのために、部活を完全禁止することが非常に困難であるという問題が残っているわけです。

### (2) 学習スタイル

参加者の学習スタイルを考慮する必要があります。学習相談室では、生徒自身が自分で学習内容を決め、自分で進め、わからない時に「先生、先生」と聞くスタイルを取っており、それは授業のスタイルとはかなり違うのです。したがって、「学習相談室の学習スタイル」と、「生徒の求める、あるいは持っている学習スタイル」とのマッチングが学習効果の点から見てかなり重要となるわけです。このことは必ずしもマイナス要因ではないのですが、全生徒が参加するに至らないという結果にもつながっていると考えられます。

また、学習スタイルとの整合性の他にも、学力向上に意欲を持つ生徒の幅広い参加を、今後は模索しなければならぬことが課題の一つであると思われます。わからないことがあったときに気楽に聞くことができる環境、それはかつてであれば放課後の職員室などが果たしていた役割かもしれないのですが、現在ではほとんど失われてしまった雰囲気です。そうした雰囲気をもった場所・機会を生徒に提供しようというのが、学習相談室開設のねらいなのです。

### (3) その他

以上の他にも、三つ目の課題としては、生徒自身の学習方法の改善までには至っていない、ということがあります。さらには、四つ目の課題として事前の周知、アナウンスの問題があります。前年度はただ「学習相談室がありますよ」と言っただけでした。その反省を踏まえ、本年度からは、各回ごとに「5月〇日は〇〇先生と□□先生で、その先生は英語と数学です」というように具体的に周知をすることで、参加者の便宜を図っているという状況です。

## 4. 学習相談室の今後

### (1) 自由参加か全員参加か

今後の改善点として、例えば自由参加か全員参加か、ということがまず挙げられます。私どもの学校でも「生徒全員にやらせた方がいい」という意見も出てきています。しかし、生徒全員にやらせるとなると水曜日が4時間授業になったにも関わらず、5時間目の1時間

半分の授業を強制的に課すことになり、それが果たしているかどうか、教師にも保護者にも賛否両論ありました。こういった点については、今後も検討していくべき部分ではあると思われませんが、私としては、機械的に平等を実現するのではなく自由参加がいいと思っています。ただ、そのためにも生徒全員に一度は参加させたいという気持ちがあります。一度参加した上で、なおかつ「この学習スタイルでは自分に合わない」という子どもは参加しなくてよいのですから、少なくとも全員が参加して、知った上で選択して欲しいというのは正直なところです。

毎回の授業の終わりに「今日の授業でここがわかった、ここがわからない」という点を生徒個々が明確にしていくことを促していかないと学習相談室の意味がなくなりますし、学習相談室に参加しない子どもでも家に帰って勉強するときに、「はて、自分は何をしたらいいんだろう」と戸惑うことになってしまいます。そういう意味でも、中学校の授業自体の改善、特に授業の終わらせ方はかなり課題になっていますが、残念ながらそこまで至っていません。私としては大きな課題だと思っています。

(2) より広範囲の参加を得る

また、教員だけでなく様々な人たちの参加を得るということを考えています。より開かれた存在にしたいのです。教員だけが教育をしているのではないからです。

本論文は、2002年度第1回プロジェクト研究会(2002年6月15日)に話題提供され、学校臨床総合教育研究センター年報『ネットワーク第5号』(印刷中)に掲載されたものである。

(3) 授業とのリンク

最後、3つ目としては、やはり授業とのリンクを実現したいという思いがあります。残念ながら、本校でも、授業とのリンクはなかなか実現できていません。

表1 学習相談室参加状況 (2001年10月～2002年3月)

	年 月 日	13													14						合計	百分率	
		10	10	11	11	11	11	12	12	12	12	1	1	1	2	2	2	2	3	3			3
		18	24	1	7	21	28	5	12	19	16	23	30	6	13	20	27	6	13	20	19回		
参加人数	3年	9		3	9	2	1	2	1		3	1	2	1	1	1							
	2年	5			3	4	15				2	3		2	6	4	16		2	1			
	1年						10	5		1		1	2	4	3	13	18	5	9	5			
	合計	14	15	3	12	6	28	7	1	1	5	5	4	7	10	18	34	5	11	6	190		
教科	国語	1			7		8	3			1				1	4	8		2	1	36		
	社会				1		7	1					2	4		8	6	2	3	1	35		
	数学	13		1	4	4	16	2			5	3	1		3	5	20		3	1	81		
	理科	2		1		5	8	1			1	2		1		5	16		2		44		
	英語	2		2	6	5	4	1	1	1		1	2	3	7	5	5	1	5	3	54		
	その他						3	1								2	5				7		
学習内容	学習の質	復習	13		3	11	4	20	6		1	4	5	3	6	6	15	34	2	10	6	149	87
		予習				2	2		1	1	1	4		2	1	3	3		1	1		23	13
	使用教材	教科書	3			2	6	14	2	1	1				4	6	8	7	1	4	4	63	
		問題集	11		1	4		16	2	1		5	3	3	1	3	8	20	1	3		82	
		塾問題集				1		1									2	3		1		8	
		通信教育	1					1									4			2		8	
その他	1		2	4		3	2				2		2	1	4	1		1	2	25			